朝は4時頃に眼を醒した　洗面なんて思
いもよらぬ事だ
その後朝食の前に座ったもの、骨のある様な
ご飯、咽喉も通らない、ムロの外は快晴光
どころか霧の様な雨が降ってゐる
午前6時15分頃　スキー用のスノウコートの上に
合羽を着用して強力の案内で八合目の室
を出発した

両風は颱風の様
な強烈なものではないが下から上へと舞い
風であるので背中の下から吹れて来る
金剛杖を便りに強力の声に呼応して"六根
清浄…六根清浄"と頂上に向う
温度は低い. 空気が稀薄であるし苦しいので
立止りでも.すると…"止っちゃイカヌ"動いてオレ"
と叱られる

こうなると大きな声を出して力一パイ六根清浄で

ある

即ち六根とは

人間の眼、耳、鼻、口、舌、並に根元となる身体の事で六根の妄執即ちいろいろの慾を断ち切って晴らかになる事で……事実こんな時に遭遇した時は自然その気持にならざるを得ないものであると云ふ事を実感した。

頂上到着はAM 7.30頃 海抜13,200尺の富士の頂上である

雨は知らぬ間に止むんであるが寒い寒い！ じっと立っても居られない

晴天の場合は"お鉢巡り"と称して火口を
廻るのだが今日は風雨の跡で
危険だと云う事で
中止した
浅間神社
奥の宮で
頂上の印を受けて下山にかかる
集印帳と
リュックサックに
時に午前八時、四方は雲に掛って何も見
えない唯寒い頂上(ゴウ)30分間滞頂と云う運
になる。
有名な"砂走り"
は御殿場
吉田口、と
駿河所の
砂走りが
あるが私達は
御殿場へ降りる事にした　山の傾斜は平均
45度位で焼岩のこまかく割れた砂で真黒で

この砂の坂が凡そ2里余りも続いてゐる
これを走って降りるのだ
一歩で6尺位の中腹だ
ある 走る！走る！
雲は晴れたり、たれ込めたり
雲が降りて来た時は、2m先の人間は見えない
自分唯一人が此の富士山の中腹にある…雲が晴れ始めると一里程先の登山者が一目に見る
日本一の富士山を征服した、この気持、此の愉快さは富士山ならではのものであらう
尤もこの砂走りをすべり降る少さな橇のようなものも、あるが利用してゐる人はなかつた。
兎に角一本の樹木も無く どちらを向いて走れば御殿場なのか 何も目印がある譯でなく全然わからない。唯傾斜に従って下へ走ってゐる状態なのだ
それでも 飛々と森の様な所が見えて…それが御殿場一合目の太郎坊だった

雪の頂上向六合目より下を望む

時間は午前10時40分
登りに7時間程費した
のが降りは2時間と…
40分の早さである
御殿場駅で中食を
すませて、富士五湖巡り
のバスを待つ、
富士山麓バスは御殿場
から五湖最大の山中湖から河口湖を通り
精進湖、西湖、本栖湖を経て白糸の滝
から大宮口を終着とする
私達二人は今夜精進湖の山田旅館を
予定してある。バスの時間はpm.1.15であるの
で相当の時間がある。服装は登山の姿その
儘で町を散歩するのも余り感心しない
然し事実は仕方のない事である
山中湖は別荘が多く建物も外国風のもの
が多いので何か下車する気持にならず…
河口湖で下車した
まだpm3.10だったのでモーターボートを待

して河口湖を回遊する。途中、煙草"敷島"の箱を想い出す敷島の松……日本の財閥連中の別荘等を見学しながら、長浦港にて下船する。長浜から西湖東岸近富士の裾野を歩く事約八丁、又々、モーターボートで西湖横断、西岸よりバスにて赤池(精進湖のほとりのある対岸)に至る

富士五湖の遊覧はやはり秋冬で9月の中旬は一番の閑散期であるので バスも船も便利が悪い。

精進湖"山田旅館"へは船がなければ行かれない。桟橋場で頼みにたのんで特別料金を支払い 上ようやく山田旅館迄 送ってもらった

山田屋旅館での泊り客は私達の他に二組位はあっただろうか?

一番にお風呂へ飛込んだ 係の女中が お湯にはいって来て "お肩を揉ませましょう" と来た。私達二人はまだ若いし旅馴れて居らんし……神経痛の事も困るので……

繰綿でございますと
お断りをした
海抜1000米位の
富士五湖"精進湖"
とは云え 7月の中旬
京都では祇園祭と夏の
盛りであるのに此處では布団二枚を着込
んでまだ烟霧がほしい位の気候である
お陽もホンの少し、静かにねむりにつく
午前4時30分頃フト眼を醒し窓を見る…
湖をへだてポッカリと中天に浮いて見える
マウントフジ！ 直ちにハネ起きてカメラを
手にのぞいて見ると何も見えぬ…
見当違いかと思ると富士は早や雲に隠れ
てゐる ホンの瞬間の出来事である
今夜は写真機を据え付けて富士の現はれるのを待った
富士山の写真はなかなか上手には撮れんものだ。
朝食後この精進湖の横にある"パノラマ台"

へ向う。
急坂22町ある
丘の上，他の者は
籠で登って行く
が私達は若い
パノラマ台で……
午前8時10分

眼下に富士五湖が一望に見え　富士山も真に
見える誠にその名にはづかしからぬ所である
ほんとに富士山の写真は上手にとれぬ。
AM 9.30 モーターボートの都合が良いので……
山田旅館を出発して"赤池"へ
富士裾野にある希境"鳴沢氷穴"へ向う
手に手にローソクを一本づつ持って地の底

へもぐって行く
のだ
生れて始めて
の氷の穴だ
冷蔵庫の中に
居れば……

と云う感じで地の底10間余り氷の間を降りて行く 氷、柱、水、氷柱と層をなしてゐる
地上は夏で暑い 地の底は氷の部屋である
時澤氷穴を出て次は富岳風穴である……
殆んど同じものであるが 保土 巨離共に富岳風穴の方が大きい そして余り離れてゐない
同じ裾野であり乍ら全然異なる氷柱層である 氷穴の氷は太く柱になってゐるに反し
風穴の方は槍の様に天井よりさがってゐる
何れ劣らぬ地底の希観である
AM.11.00頃 風穴に別れを告げ裾野を大宮町に向って走る その間3時間余り富士見峠で有名な隠れ家"音止の滝"に至る

九蔵祐経を討たんと苦労して居るのに滝の音がやかましく兄弟に止られ音が止った滝だとの説明を聞き乍ら…

白糸の滝に到着する
白糸の滝は水源が無い即ち富士山の地下水脈が地層の境から湧き出してゐるもので早く云えば田甫の水が地の割れ目から流れ出て数條の滝となってゐると云う譯だ
茶店にて小憩の後 当初の桜本旅館に無事帰着した
昼食後 pm. 3:40発の富士身延山鉄道へ…
pm 4.12 豊橋辺りの普通車にて富士駅出発
静岡駅にて途中下車して市内見物……
pm 6.30発 京都行列車に乗込む
座席は楽にとれてよかったが夏の夜汽車でダラと寝ては仕方がない 京都駅へ着いたのは午前4時20分だが 蚊にせやまされ続けの列車だった
一番電車迄駅構内で仮眠 pm 6.30帰宅。
北村君に誘れての富士登山 …… 私の感じは富士山は見る山で登る山ではない…と
然し楽しい旅行だった

s 記 s